

徒然草 兼好法師 ある人、弓射ることを習ふに

①ある人、弓射ることを習ふに、諸矢をたばさみて的に向かふ。

②師のいはく、「初心の人、二つの矢を持つことなかれ。

③のちの矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり。

④毎度ただ得失なく、この一矢に定むべしと思へ。」と言ふ。

⑤わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろかにせんと思はんや。

⑥懈怠の心、自ら知らずといへども、師これを知る。

⑦この戒め、万事にわたるべし。

⑧道を学する人、夕べには朝あらんことを思ひ、朝には夕べあら

んことを思ひて、重ねてねんごろに修せんことを期す。

⑨いはんや一刹那のうちにおいて、懈怠の心あることを知らんや。

⑩なんぞ、ただ今の一念において、ただちにすることはなはだかたき。